

平成29年度文京区アカデミー推進協議会第1回分科会(スポーツ・文化芸術)概要記録

日 時	平成29年6月15日(木) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンター地下1階 多目的室
出 席 委 員	座長 水越 伸 (東京大学院教授) 井上 充代 奥村 透 高澤 芳郎 牧野 恒良 海藤 早希子
欠 席 委 員	(なし)
事 務 局	竹越アカデミー推進課長 木村スポーツ振興課長 矢部文化事業係長 川口文化資源担当室長 小管スポーツ振興係長 加藤施設等担当主査
資 料	次第・文京区アカデミー推進協議会分科会別名簿・事業パンフレット
(議事) 1 開 会	(1)分科会の進め方について (2)概要説明 (3)委員より質問・意見等
2 アカデミー推進 計画のスポーツ・ 文化芸術分野にお ける平成28年度の 事業実施状況の点 検及び評価につい て ・ 委員意見 ◎事務局補足説明	1 分科会の進め方について(水越座長) はじめに事務局より事業の概要説明を行ない、それに対する質問によるディスカッションを行う。話を聞きながら、付箋にメモを書き出す。青い付箋に良いと思うもの、赤い付箋に課題を書く、事務局を含め参加者全ての人に書いてもらう。 2 スポーツ分野について (1) 事業概要説明(木村スポーツ振興課長) 「文京区アカデミー推進事業調査結果」(資料4)P16からP22までスポーツ分野について事業概要説明。 (2) 委員より質問、意見等(事業概要説明と同時進行) ・実績の記載について、参加者数の分かるものは、参加者数を記載して欲しい、応募者数もあると人気度合が分かる。 ・講道館との協力事業について、課題で十分な連携が図れなかったとある。 ◎講道館では選手を抱えているわけではなく、選手派遣の要請をしたが、上手いかなかった。 ・講道館や読売巨人軍との協力とあるが、一流どころでなくとも、柔道の強い大学や東大野球部などの指導でも、子ども目線では十分である。区内に19大学あるので連携してはどうか。 ・いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進について、スポーツは出ていくと選択肢は多いが、初めての人は勇気を振り絞ってきている。「初心者」と冠を付けると影響は大きく、初めての方も参加しやすい。 ・以前スポーツセンターにバドミントンをしに行ったとき、場所取りの人が多く、はじめの方で羽根を打っていた。また、誰が指導員か分からなかった。指導員はいるのか。 ◎日時によって指導員が居ます。 ・卓球やビーチバレーも場所取りは多いです。

- ・小学校の体育館開放のように小規模な方が指導員から指導を受けられる。
- ・大学の体育館を使うのはどうか。カリキュラムの関係で空いているときがある。
- ・ファミリーハイキングは場所によって応募が多い

◎昨年のファミリーハイキングは箱根でした。

- ・文京区の坂をめぐるハイキングをやってはどうか。
- ・高齢者対象の介護予防教室の参加者はかなり多い。
- ・スポーツ指導員の育成は課題で、各スポーツ団体にも言える。
- ・スポーツ指導員は指導員講習会に参加義務ではないんですね、育成であれば義務にしないと育っていかない。

◎義務ではないですが、スポーツ推進員には参加していただいている。推進員は現在33名いますが、今後増やしていきたいと思っている。

- ・障害者スポーツはどこで行っているのかが一番だと思うが、スポーツひろばでも指導のできる人が少ないのが現状です。
- ・障害者向けは、どういう障害の方を対象にしているのか。

◎基本的には特定しているものは無く、誰でもできるというのが前提になっている。

◎企業が地域貢献として企業所属のパラスポーツの選手を学校に派遣していただいて実際に障害者と一緒に競技をしたりしている。

- ・「区内まるごとキャンパスに」といって、19大学をなぜ使わないのか。
- ・アカデミー推進と言っても大学が進んでいて、大学と連携していない、大学があるのであれば、たとえば東洋大学の駅伝を指導している人が、歩き方教室とか行えば、高齢者の方も気になるだろうし、駅伝に興味のある人だったら喰い付いてくる。アカデミーの学問のうちのスポーツとして1日公開することによって、いろんな人が、好きなことが受けられるということがある。

3 文化芸術分野について

(1) 事業概要説明(竹越アカデミー推進課長)

「文京区アカデミー推進事業調査結果」(資料4)P22からP30まで文化芸術分野について事業概要説明。

(2) 委員より質問、意見等(事業概要説明と同時進行)

- ・能楽でも若い人の参加が、十年来の課題ですが、高齢者の方が参加されて非常に元気です。これは先ほどのスポーツのように介護予防にもつながる。

◎宝生さんにもご協力いただいて、若い子どもたちに「I don't know…No problem! みんなで親しむ能プロジェクト」と題して、小中学生から高校生も含めたお子様たちに能に興味を持ってもらおうと、1日だけですが、親子で参加し、舞台裏の見学や舞台に上がる体験や鑑賞する催しを8月20日に行う。

- ・能楽師の体幹の強さなど最近言われている。
- ・吹奏楽では、若い人たちが吹奏楽部で楽器をやっている卒業すると楽器から離れてしまう、今、我々がやっていることは、押し入れに眠っている楽器を持ってコンサート会場に来てくださいといっ、コンサートの最後にお客さんと一緒に吹きましよう

	<p>と、毎回やっています。また楽器をやることによって豊かな老後につなげる。そのうち、自分たちが楽器を吹きたいのでコンサートに来るようになっていく。純粋に演奏を聴きに來る方は、もう少し年齢層が上の方たちです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロの演奏家と提携していることで、中学生たちがプロの演奏家に身近の指導を受けることは、他の所では実現できない夢のような話です。 ・毎年中学校に楽器指導に行っているが、区民の方にはなかなか知れ渡らない。財団には、もっと知らせた方が良いと言っている。たとえば、中学生に限定した公演でお知らせすればいいのではないか。文京区が、こういうことをしていることを広くアピールした方が良い。 ・親子向けコンサートについて、夏休みにやっているが、他の時期に行ってはどうか。 ・シエナと東京フィルで夏休みの近い時期ということで、翌年からシエナは3月の雛祭り時期に移した。 ・シビックコンサートの課題で、音量の大きい楽器による影響とあるが、対応はどうしているか。 <p>◎事前に関係部署等にはお知らせしている。何も知らないで來られた方がうるさいという声もある。毎月、コンサートをお目当てで來られる方もいる。</p> <p>◎28年度ミュージックマップ英語版を作成した。外国の方も分かる英語で書かれている。また、ミュージックマップも見ればたどり着けるように国土地理院の地図を使ってリニューアルした。</p> <p>◎区立博物館はふるさと歴史館と森鷗外記念館の2館あり、資料の収集や展示など博物館事業に加えて、区民を中心にボランティアが勉強したことをアウトプットし、町を案内したり、学んだことを発表(展示解説ボランティアなど)する場としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座は、どれくらいやっているのか。 <p>◎ふるさと歴史館のボランティア養成講座は、これまでに2回募集して、半年弱で5～6講座を受講したあと、ボランティアとして活動を始めてもらった。</p> <p>◎謡曲とか民踊とか知ってもらうために28年度からポスターコンクールを始めた。</p> <p style="text-align: right;">以上意見質問等</p>
3 次回の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・文化芸術分野の状況が分かったところで、グリーンの付箋(良いこと)、ピンクの付箋(課題)をそれぞれ3枚以上書いて、来週、持ってくる。 ・来週ははじめから付箋を貼りながら、どういう共通性があるとか説明しながらワークショップを行う。